

等のために、平成9年9月1日から休日昼間の9時から17時までの時間帯において、県内5フロクの救急指定病院輪番制による精神科救急医療システムの整備を図っている。かかりつけ病院に相談したが、休日で受診ができない場合などに当番病院での入院や外来診療が可能となるもので、平成12年度の実績としては、24か所の救急指定病院の対応総件数が590件で、そのうち外来受診件数は324件、入院件数は133件であった。

平成13年度の夜間精神科救急医療体制の整備については、現在、新潟県精神科救急医療システム連絡調整委員会において後方支援病院のあり方も含め、体制整備に向け検討を行っているところである。

## 第47回新潟大腸肛門研究会

日時 平成13年6月2日(土)  
午後3時～午後6時  
場所 ホテルディアモント新潟

### I. 一般演題

#### 1 大腸癌における p73発現とその臨床病理学的意義

劉 莉莉 崔 星  
佐々木正貴 須田 武保 (新潟大学)  
畠山 勝義 (第一外科)  
坂口 武夫 (同 第一生理)

92例の大腸癌患者を対象とし、手術摘出標本のp73発現を解析し臨床病理学的因子との相関を調べた。p73発現を2様式(small expression, 0-50%)、large expression, >50%に群分類すると、small expressionが78%となった。P73の発現様式は腫瘍の部位、大きさ、程度、段階とは相関せず、腫瘍の再発性で有意な相関を示した。

更に、発現様式と生存期間との間では優位な相関が判明し、large expression群はより短い生存期間となった。結果は、P73は癌の再発に関与すること、P73の解析が術後の臨床経過の予測に有用である可能性を示している。

#### 2 大腸・直腸粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡診断

船越 和博 新井 太  
小堺 郁夫 本山 展隆  
秋山 修宏 加藤 俊幸 (県立がんセンター)  
小越 和栄 (新潟病院内科)  
太田 玉紀 (同 病理)  
斎藤 征史 (斎藤内科 消化器科医院)

超音波内視鏡(EUS)を施行した大腸・直腸粘膜下腫瘍(SMT)23例(大腸6例、直腸17例)について検討した。カルチノイド10例、平滑筋腫3例は全例直腸病変で、他に脂肪腫1例、リンパ管腫4例、血管腫1例、線維腫1例、結核性腸管壁内石灰化肉芽腫1例、診断未定2例であった。19例(82.6%)がEUSにて診断され、2例が内視鏡切除(EMR)、手術にて診断された。EMR症例8例は全例カルチノイドで、手術症例は直腸線維腫1例、カルチノイド2例であった。カルチノイドではEUSにて粘膜下層が確認でき、固有筋層の圧排所見がなく、10mm以下の症例はEMR可能であった。EUSは大腸・直腸SMTの局在および質的診断、治療方針の決定に有用である。

#### 3 Pain Clinicによる直腸肛門痛の治療経験

吉田 鉄郎 飯塚 正仁 (医療法人誠心会)  
笹口 政利 (吉田病院外科)  
木村 亮 (同 麻酔科)

当科には直腸肛門痛を訴える患者が多く来院する。然し激しい慢性の痛みを訴え乍ら原因となる病変が全く認められていない患者もおり、私はこれを(1)突発性直腸肛門部痛とし、更に既往に直腸肛門部に何等かの手術を受け、手術創は充分治癒しているにも拘らず、慢性の疼痛に悩まされておるものあり。これを(2)直腸肛門部術後痛と名

付けました この痛みは排便とは無関係で鎮痛剤も無効です

当院ではこのような症例に Pain Clinic の手技を用いて治療し効果を上げています 対象1997～2000年迄の4年間の123例中、アンケート調査では86例の回答を得ました 痛みの効果の判定にはVAS法を用いた 結果(1)(2)を通じて Caudal block は45例中著効27例59.4% Saddle Block 37例中著効24例64.9% 持続硬膜外 block は13例中11例著効84.6%でした ほとんどの症例にうつゝの徴候が認められ、抗うつ剤の内服を併用した 直腸肛門の慢性疼痛は難治のもの多く、その治療に当っては診療内科医との協力も必要と思われる。

#### 4 当院で行っている肛門鏡・怒責排便兼用 CCD カメラモニターシステム (DuVAMS)

畑川 幸生 (畑川クリニック)

CCD カメラモニターシステムを用いて、ケリー式肛門鏡診と怒責排便診を一体化した Dual Visual Anal Monitor System (DuVAMS)

目的は Client との患部情報の共有、動的排便状態の観察による脱出性肛門疾患の病態の把握である 坂田式 TV カメラ排便モニターシステムを参考とした その特徴は、①リモートコントローラーによる遠隔操作、②Zoom、③Focus、④角度調整(上下、左右)、⑤インターフォンによる遠隔操作(排便強度の調整)、⑥被検者の羞恥心の軽減、検者の汚染などの問題点の解消である。怒責排便診はとくに脱出性痔核の大きさ、程度、内痔核、外痔核の区別などを把握でき治療法及び手術適応に対して有用な情報となる

#### 5 当院での大腸再建法

##### —VERSAFIRA GIA を用いた functional end-to-end anastomosis—

野上 仁 龍井 康公  
藪崎 裕 土屋 嘉昭  
梨本 篤 田中 乙雄 (県立がんセンター)  
佐野 宗明 佐々木 壽英 (新潟病院外科)

【目的】2000年7月より、当院では結腸切除術

後の再建に VERSAFIRA GIA を用いた functional end-to-end anastomosis (FEEA) を採用している。その手技と有用性について報告する

【吻合手技】すべての症例で、VERSAFIRA GIA 60mm (VF) を用いて吻合を行った VF にて腸管を切離 腸間膜対側を切開し、切開口より VF フォークを挿入し吻合する。フォーク挿入口の閉鎖も VF を用いて行う VF のカートリッジを合計4本使用している。

【結果】FEEA 群は男性15人、女性17人、平均年齢64.7 (±9.9) 歳 手術時間平均177.7 (±67.5) 分、出血量平均81.4 (±85.8) ml で、いずれも手縫い症例に比べ有意差を認めなかった 全例で出血、縫合不全は認められなかった 腸閉塞を4例と手縫いに比べ多く認めた

【考察】機械吻合の利点に加え、VFを使用した吻合は、操作がより清潔であること、漿膜筋層縫合が必要ないこと、止血効果が強いことが利点として挙げられる

#### 6 Perineal rectosigmoidectomy を施行した完全直腸脱の1例

酒井 靖夫 坪野 俊広  
石崎 悦郎 相場 哲朗 (済生会新潟第二病院)  
川口 正樹 (外科)

症例は88歳、女性 平成9年頃から直腸脱がみられ、老人性痴呆のための入所先の施設で排便管理に支障を来していた 理学所見では長さ10cm以上の完全直腸脱で、常時脱出し肛門周囲皮膚炎を伴っていた 高齢、全身・局所状態などから低侵襲の経肛門的アプローチである Perineal rectosigmoidectomy with levatoroplasty (Altemeier) を施行した 術後経過は良好で、疼痛は軽微であった 1病日から起座位となり、2病日に排便あり、4病日より流動食開始、全粥摂取し、16病日に退院した 注腸造影でやや鈍角ながら直腸肛門角の形成がみられるようになり、排便状況の改善をみた 本術式の手術手技の要点をビデオで供覧した